

性格の多様性が生まれるアンサンブル現象の解明

Ensemble phenomena that create diversity of personality

熊本大学 大学院生命科学研究部（薬） 倉内祐樹

Kumamoto Univ., Yuki Kurauchi

E-mail: kurauchy@kumamoto-u.ac.jp

クレッチマーの気質概念に代表されるように、遺伝および環境の影響を受けて形成される私たちの“性格（個性）”は、精神疾患のみならず、循環器系疾患や代謝系疾患も含む様々な疾患の発症に関わると考えられている。特に、うつ病や不安障害などの精神疾患患者数は年々増加し続けており、社会活動へ参画できないことによる生産性低下や医療コスト増加などの社会的損失は無視することができず、疾患の予防および治療は現代社会が解決すべき喫緊の課題である。社会生活の中で晒される多様なストレスがうつ病やひきこもり等のリスクファクターとなるが、興味深いことに、深刻なストレスを受けたにも関わらず健康を維持できている人が一定数存在する。しかしながら、ストレス対処能力の個人差が生まれる詳細なメカニズムは明らかではない。

“性格（個性）”は遺伝および環境要因が複雑に絡み合って形成される。これまでに作製された様々な遺伝子改変マウスの行動解析から、遺伝要因と“性格（個性）”の関係は研究されてきたが、環境要因への介入が十分ではなく、未だヒトの“性格（個性）”形成メカニズムの解明には至っていない。本研究では、従来研究の問題点である『同一遺伝背景を持つマウス集団を均一な環境で飼育する』というヒト社会ではイレギュラーな生育環境を見直した新規実験系を構築した。講演では、『アンサンブル状態』で創出される“性格（特に、ストレス対処能力）”の多様性について紹介する。